

キッチン用ハンズフリー水栓

SF-NB481SX型

工事店様へのお願い
 貴店名ならびに据付引渡日を保証書にご記入の上、お客さまに必ずお渡しいください。
 また、定期的な交換が必要な部品があることをお客さまに必ずお伝えください。
 商品の機能が100%発揮されるよう、本説明書の内容を十分ご理解の上正しく施工していただき、
 なお施工完了後、この施工説明書を同梱の「取扱説明書の袋」に入れてお客さまにお渡しください。

1. 施工の前に

安全上のご注意

- 施工前に、この「安全上のご注意」をよくお読みのうえ、正しく施工してください。
- ここに示した注意事項は状況によって重大な結果に結びつく可能性があります。
- いずれも、安全に関する重要な内容を記載していますので、必ず守ってください。
- 施工完了後、正常に作動することを確認してください。お客さまに引き渡すときは、取扱説明書にそって使用方法、お手入れの仕方を説明してください。
- この施工説明書は、取扱説明書と共にお客さまで保管頂くように依頼してください。

用語および記号の説明

- 警告** …… 「取扱いを誤った場合に、使用者が死亡または重傷を負う危険な状態が生じることが想定されます。」
- 注意** …… 「取扱いを誤った場合に、使用者が軽傷を負うかまたは物理的損害のみが発生する危険な状態が生じることが想定されます。」
- ⚠ …… 「注意しない！」
 (上記の「注意」と併用して注意をうながす記号です。必ずお読みになり、記載事項をお守りください。)
- ⊘ …… 「してはいけません！」 (一般的な禁止記号です。)
- ⊘ …… 「分解してはいけません！」
 (分解禁止)
- ⊘ …… 「バスルームやシャワールームなどの水場で使用してはいけません！」
 (水場禁止)
- ⓘ …… 「指示通りにしないで！」 (一般的な行動指示記号です。)

⚠ 警告	
⊘ (分解禁止)	修理技術者以外の人は水栓を分解したり、修理したりしないでください。 ※発火、感電したり、異常動作してケガをすることがあります。
⊘ (禁止)	水につけたり、水をかけないでください。 ※発火、ショート、感電、故障の恐れがあります。
⊘ (禁止)	電源コードを傷つけたり、破損したり、加工したり、無理に曲げたり、引っばったり、ねじったり、束ねたり、重い物を乗せたり、挟み込んだりしないでください。 ※電源コードが破損し、発火、ショート、感電の原因になります。
⊘ (禁止)	電源プラグを濡れた手で触れないでください。 ※感電の原因となります。
⊘ (禁止)	電源コードや電源プラグが傷んだり、コンセントへの差し込みがゆるいときは使用しないでください。 ※発火、ショート、感電の原因となります。
⊘ (禁止)	交流100V (50/60Hz) 以外では使用しないでください。 ※発火、ショート、感電の原因となります。
⊘ (禁止)	直流電流や異電圧の電源での使用は避けてください。 ※火災の原因となります。
ⓘ (指示)	給水圧力は給湯圧力より必ず高くしてください。 ※正常な調節ができなくなり、ヤケドをする恐れがあります。
ⓘ (指示)	電源プラグに付いたホコリは、取り除いてください。 ※電源プラグにホコリがたまると、湿気などで絶縁不良となり、火災の原因となります。 電源プラグを抜き、乾いた布でふいてください。
ⓘ (指示)	電源プラグを抜くときは、電源コードを持たずに必ず先端の電源プラグを持って引き抜いてください。 ※発火、ショート、感電の原因となります。
⊘ (水場禁止)	バスルーム等の水がかかると、表面に水滴を生じようとする湿気が多い場所では使用しないでください。 ※発火、ショート、感電、故障の原因となります。
⚠ 注意	
⊘ (禁止)	水道水及び飲用可能な井戸水以外は使用しないでください。 ※商品の内部腐食により漏水、発火、ショート、感電の原因となります。 ※飲用可能な井戸水とは、水道法に定められた飲料水の水質基準に適合する水を言います。
⊘ (禁止)	湯水を逆に配管しないでください。 ※水を出そうとしても、湯が出てヤケドをする恐れがあります。
⊘ (禁止)	給湯機器の温度設定は85℃以上で使用しないでください。 ※水栓が破損し、ヤケドや家財などを濡らす恐れがあります。
⊘ (禁止)	トイレ用洗剤、住宅用洗剤、漂白剤、ベンジン、シンナー、トイレ用ウェットティッシュ、クレンジング、クレゾールを使用しないでください。 ※発火、ショート、感電、故障の原因となります。
⊘ (禁止)	衝撃を与えたり、もたれかかったりしないでください。 ※破損してケガをしたり、漏水や故障の原因となります。
⊘ (禁止)	水栓は水抜き以外の目的で開けないでください。 ※ケガをしたり、故障・破損の恐れがあります。
ⓘ (指示)	ヤケドの恐れがないところまで水圧変動を押さえた配管設備にしてください。 ※他所の水栓の使用などにより水圧変動が起こり、湯の使用中に湯温が急上昇し、ヤケドをする恐れがあります。
ⓘ (指示)	フレキホースの差し直しやストレーナの掃除をする際は、必ず湯側水側の両方の止水栓を閉じてから行ってください。 ※湯・水が噴出してヤケドをしたり、家財などを濡らす財産損害発生恐れがあります。
ⓘ (指示)	お客さまに引き渡す前に凍結が予想される場合は水を抜いておいてください。 ※凍結破損で漏水し、家財などを濡らす財産損害発生恐れがあります。

本製品の仕様と条件

電源	AC 100V 50/60Hz	消費電力	常時：0.8W以下 作動時：2.5W以下
給湯器設定温度	85℃以下	使用可能水質	水道水および飲用可能な井戸水 (※1)
使用環境温度	【一般地仕様】 0~40℃ 【寒冷地仕様】 -20~40℃	但し、内部の水を凍結させないでください。	
給水給湯接続	G1/2		
圧力条件	水栓単品の場合 0.06MPa(流動圧)~0.75MPa(静水圧) キッチンくるりんと接続の場合 0.07MPa(流動圧)~0.75MPa(静水圧)	給水圧力≧給湯圧力 ※2	
感知距離 (グレーカード：80mm角)	タッチセンサー 約40mm 自動センサー 約130mm(ロングモード)吐水中約200mm	感知エリア幅	タッチセンサー 約5mm 自動センサー φ10mm以下
電源コード長さ	1170mm		
取付条件	水栓取付穴：φ37±2mm、カウンター厚：5~30mm		

- ※1：飲用可能な井戸水とは、水道法に定められた飲料水の水質基準に適合する水をいう。
- ※2：給湯圧力が給水圧力よりも高い場合、正常な調節ができなくなり、ヤケドをする恐れがあります。

ガス給湯器 (比例式制御式：24号相当) と組み合わせる場合の給水圧力

	水栓単品の場合	キッチンくるりんと接続の場合 ※1
最低必要圧力	A+0.09MPa(流動圧)	A+0.10MPa(流動圧)：給湯器設定温度60℃ A+0.07MPa(流動圧)：給湯器設定温度42℃
最高圧力	0.75MPa(静水圧)	

- ※1：給湯器設定温度が75℃以上の場合は、最低必要圧力は、0.12MPaとなります。着火しない場合は設定温度を下げてください。測定条件は次の通りです。
- レバーハンドルは全開。
- 給水温度5℃、吐出温度42℃ (ガス給湯器との組み合わせが最も悪い冬季を想定)。
- 給水圧力はガス給湯器直前における流動時の圧力です。

株式会社 LIXIL ●商品・施工方法についてのお問い合わせ
 お客様相談センターまで
 ナビダイヤル TEL 0570-017-173

受付時間 平日 9:00~18:00
 土日・祝日 9:00~17:00
 (ゴールデンウィーク、年末年始、夏期休暇は除く)

貯湯式温水器と組み合わせる場合の給水圧力

	水栓単品の場合	キッチンくるりんと接続の場合
最低必要圧力	0.07MPa(流動圧)	0.07MPa(流動圧)
最高圧力	0.75MPa(静水圧)	

- 給水圧力と給湯圧力の差を小さくしてください。温度調節が容易になり使いやすくなります。

その他の条件

- 給水圧力が0.75MPaを超える場合は、市販の減圧弁で適正圧力(0.20~0.34MPa)に減圧してください。
- 給湯器に蒸気は使用できません。
- 給湯温度は使用する最高温度より約10℃高く設定してください。
- 不意の出湯によるヤケド防止のため、給湯器の設定温度は60℃以下をおすすめします。

施工前のご注意

取付けに必要な工具

- 取付けにはプラスドライバー、スパナ (対辺8、23)、マイナスドライバー、精密ドライバー (マイナス) が必要です。

止水栓を設けてください。

- 取付け後の流量調節や手動弁操作・保守点検のために、必ず止水栓 (別売) を設けてください。
- 使い勝手や性能発揮のために **流量調節をしてください**。特に水圧が高い場合など、流量調節がされていないと漏水・破損の恐れがあります。

隠蔽部に施工する場合は点検口を設けてください。

- 取付け後の手動弁操作の施工のために、必ず点検口を設けてください。

補強材を使う場合

- カウンター裏面に補強材を使う場合は、木製のボードを使用してください。珪酸カルシウム板は使わないでください。本体が正しく固定できないことがあります。やむをえない事情で珪酸カルシウム板を使用する場合は、別売りのA-3811を使用し取り付けしてください。

配管・配線について

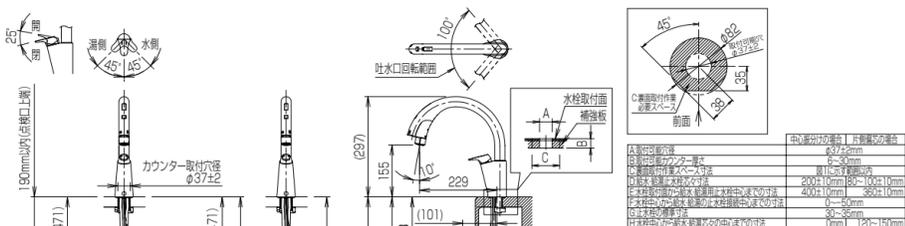
- 給水は水道水に接続してください。
※温泉水など異物を多く含む水には使用できません。
- 給水配管が右側、給湯配管が左側に配管されていることを確認してください。
※逆配管では表示通りに湯が出ません。
- 給湯配管はできるだけ短くし、必ず保護材を巻いてください。
- 万が一の危険防止の為、電源の一次側に1か所漏電遮断器を設置してください。
- 電源線はφ1.6mm又はφ2.0mm以上のものをご使用ください。(現場手配)
- 電気工事は必ず電気工事店に依頼してください。
- コンセントは、震源プラグの定期的なお手入れが行えるような位置に設けてください。
※隠蔽部には設けないでください。
- 水道工事と電気工事は十分工程を打ち合わせのうえ行ってください。
- 必ず配管中の異物を完全に洗い流してください。

その他の注意点

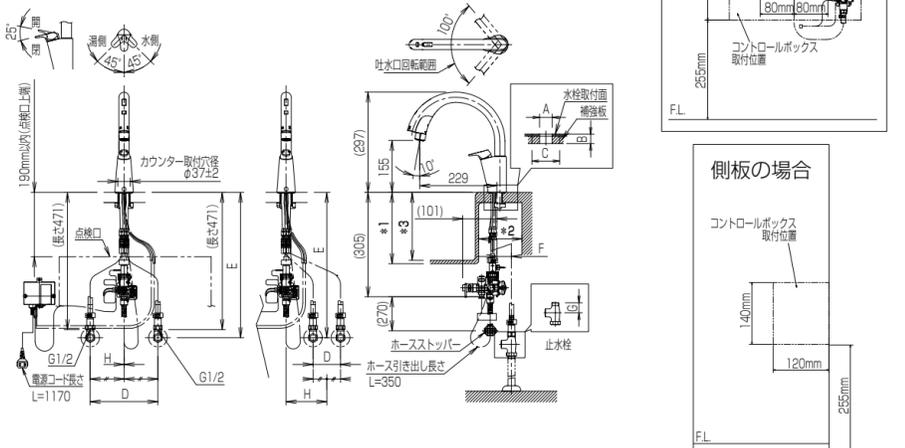
- 商品の表面には、直接工具を掛けしないでください。
- 工具を掛ける場合には、必ず商品に布等をあてて保護してください。
- 開梱、取付けの際には商品の表面にキズを付けないように十分に注意してください。
- センサーの窓を傷つけないように十分にご注意ください。
- インバーター照明や赤外線を用いたほかの機器により誤作動する場合があります。
- 直射日光が当たる場所でのご使用は誤作動の原因となります。

施工完了図

SF-NB481SX型



SF-NB481SXN型

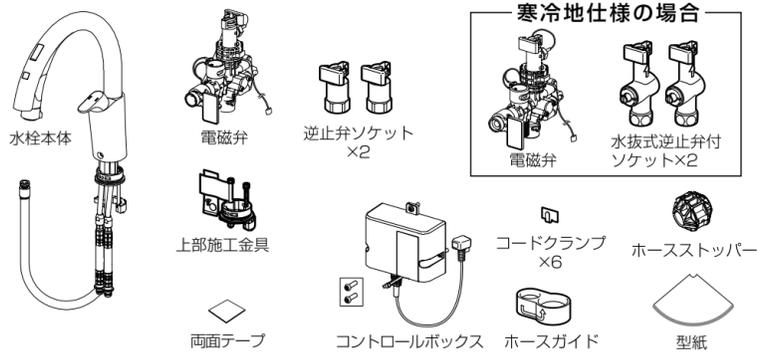


- 品番によっては、図と現品の形状が一部異なります。
- シンク深さ(厚み含む)*1寸法が220mm以上の場合は*2寸法が145mm以上ないと、バルブがシンクと干渉施工できません。*1寸法が220mm以上かつ*2寸法が145mm未満の場合は当社お客様相談センターまでお問い合わせください。
- 水栓取付面から上方450mmより低い位置に棚や物がある場合は施工できません。
- 使用時には、375mm以内で他器具 (昇降キャビネットの取っ手を含む) のないようしてください。
- 水栓取付面からシンク下の底板 (棚板) までの距離が540mm以上ないと、ホース収納時に底板 (棚板) との干渉が大きくなり、使用上問題はありませんが、ホース収納性が悪くなります。
- コンセントは電源コードの届く範囲で、床面より高く水のかからない位置に設置してください。
- センサーが誤感知する恐れがありますので、寸法*3を150mm以上の空間を確保してください。
- 吐水口の下にカウンターやサポーターを置いた時、センサーが誤感知する恐れがあります。
- No4仕上げ以上のステンレスシンクへ設置しないでください。(詳細はステンレス協会HP「ステンレスの主な表面仕上げ」参照) センサーが誤感知する恐れがあります。

株式会社 LIXIL ●商品・施工方法についてのお問い合わせ
 お客様相談センターまで
 ナビダイヤル TEL 0570-017-173

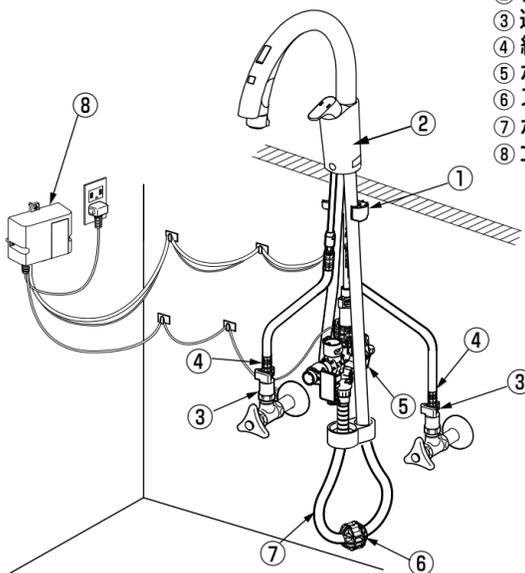
受付時間 平日 9:00~18:00
 土日・祝日 9:00~17:00
 (ゴールデンウィーク、年末年始、夏期休暇は除く)

部品の確認



2. 施工手順

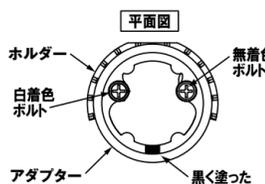
- ① 上部施工金具の取付け
- ② 水栓本体の取付け
- ③ 逆止弁ソケットと止水栓の接続
- ④ 給水・給湯ホースと逆止弁ソケットの接続
- ⑤ ホースと電磁弁の接続
- ⑥ ストッパーの固定
- ⑦ ホースの収納性の確認
- ⑧ コントロールボックスの接続と設置



3. 施工方法

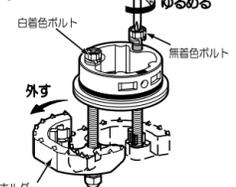
以下の手順の通り、正しく取り付けてください。

1 上部施工金具の取付

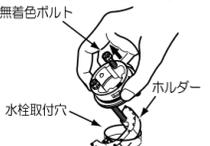


注意
上部施工金具は向きに注意して、正しく取り付けてください。
※正しく取り付けないと水栓本体の固定強度が低下するなど、不具合の原因になります。

1. 無着色のボルトをゆるめ、ホルダーを外す。



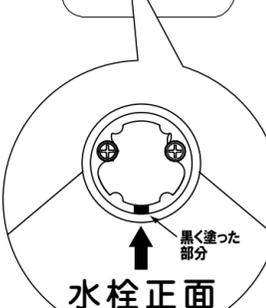
2. ホルダーを水栓取付穴に挿入する。



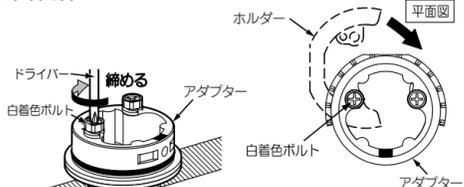
ポイント

無着色ボルトは引っかかりないように、少し引っ張り上げておく。

3. 同梱の型紙を使って、「検知範囲」がシンク内に納まるように水栓正面を決め、黒く塗った部分が型紙の矢印と合うように位置決めをする。

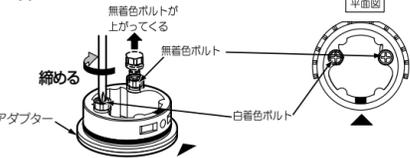


4. アダプターを手で押さえ、白着色ボルトを1~2回転締める。

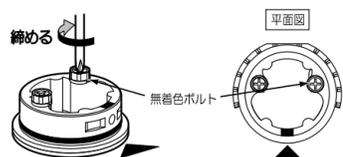


注意
ゆっくり回してください。
※高速回転はしないでください。
正しく施工できなくなる恐れがあります。

5. アダプターを手で押さえ、白着色ボルトをしっかりと締める。

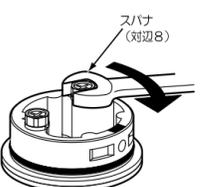


6. 無着色ボルトをしっかりと締める。



ポイント
各ボルトを交互に締め付け、締め力が均等になるようにする。

7. スパナでそれぞれのボルトを約1/2回転程度増締めする。



注意
締め付けすぎないでください。

確認
アダプターのぐらつきがないこと。

2 水栓本体の取付け

1. ホースの先端が固定軸の中にかくれるまで、ハンドシャワーを引き出す。
5. 水栓本体をアダプターに装着する。

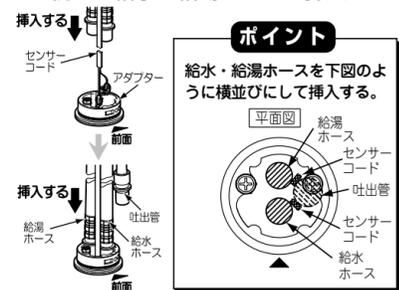


注意
●パッキンの紛失に注意してください。
※漏水の原因になります。

落下注意
※傷や破損の原因になります。

●先端のキャップはそれぞれ接続する直前まで外さないでください。
※Oリングに傷がついたりゴミがこぼれ込むことで漏水の原因になります。

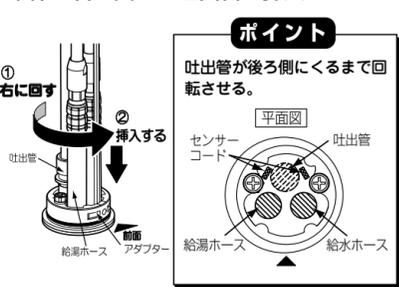
2. センサーコードを先にアダプターに通し、続いて給水・給湯ホースを挿入する。



ポイント

給水・給湯ホースを下図のように横並びにして挿入する。

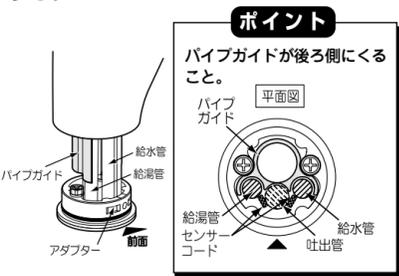
3. 吐出管がアダプターに当たる手前で水栓本体を右に回し、吐出管を挿入する。



ポイント

吐出管が後ろ側にくるまで回転させる。

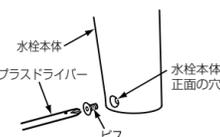
4. そのままの向きで、パイプガイドを挿入する。



ポイント

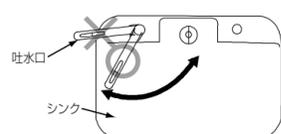
パイプガイドが後ろ側にくること。

6. 水栓本体を仮固定する。



7. 吐水口を左右に回転し、シンク外に吐水口が出ないか確認する。

注意
シンク外に吐水口が出るとカウンターを感知し、自動吐水する場合があります。

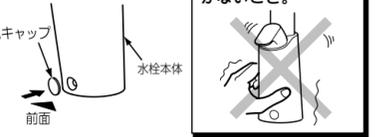


8. はみ出す場合は、水栓本体を取り外し、上部施工金具のボルトを無着色ボルト、白着色ボルトの順に少し緩め、吐水口がシンク内に収まるように回転する。

9. 白着色ボルト、無着色ボルトを②の5 6 7の手順に従いしっかりと締めつけて、それぞれのボルトを1/2回転程度増締めする。

10. 水栓本体を固定する。

- ① ピスでしっかりと固定する
- ② ゴムキャップをはめる



確認

水栓本体にぐらつきがないこと。

3 逆止弁ソケットと止水栓の接続

1. 抜け止めカバー・固定リング・樹脂キャップを外す。
2. 逆止弁ソケットをスパナ(対辺23)で止水栓に固定する。



注意
パッキンの紛失に注意してください。
※漏水の原因になります。



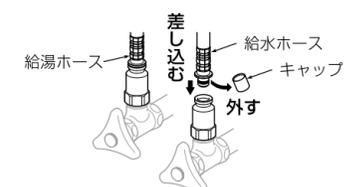
注意

逆止弁ソケットはナット部に工具を掛けて、しっかりと固定してください。
※締め付けが不十分であったり強く締め付けすぎると、漏水の原因になります。

4 給水・給湯ホースと逆止弁ソケットの接続

1. 給水・給湯ホースを逆止弁ソケットに差し込む。

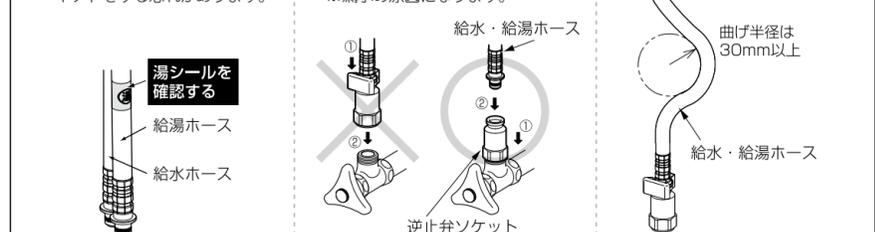
注意
Oリングに傷をつけたりゴミがこぼれないよう注意してください。
※漏水の原因になります。



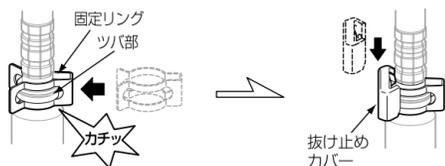
●給水・給湯ホースの差し間違えに注意してください。
※水を出そうとしても、湯が出てヤケドをする恐れがあります。

●必ず逆止弁ソケットを止水栓に固定してから給水・給湯ホースを接続してください。
※漏水の原因になります。

●ホースを曲げる場合は、曲げ半径30mm以上確保してください。
※漏水の原因になります。



2. 固定リングと抜け止めカバーをはめ込む。



確認

給水・給湯ホースを上引き、外れないことを確認してください。



注意

●抜け止めカバーをはめ忘れないようにしてください。
※リングに触れるとケガをする恐れがあります。



●固定リングをはめ損ねないよう、必ずしっかりととはめ込んでください。
※外れると漏水の原因となります。

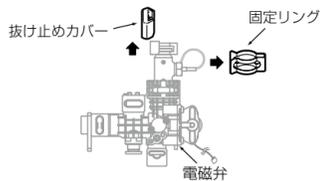


キッチンくるりんと接続の場合

キッチンくるりんと接続の場合は、キッチンくるりん (KS-800) に同梱の取付設置説明書に従い、水栓本体に接続してください。

5. ホースと電磁弁の接続

1. 電磁弁の抜け止めカバー・固定リングを外す。

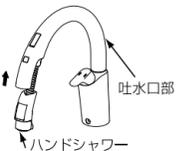


注意

クリップに触れるとけがをする恐れがあります。



2. ハンドシャワーを吐水口部に収納する。

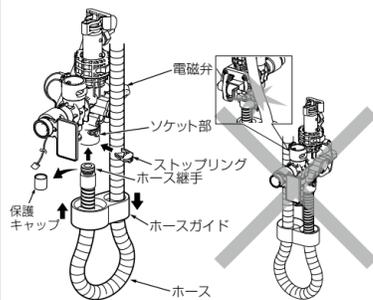


ポイント

ホースが抜けて入れにくい場合は、ホースを押しながら回転させてください。

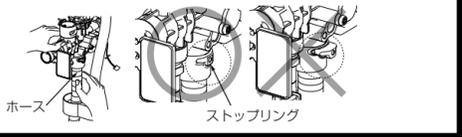


3. ホースをホースガイドの矢印のとおりに通し、ホースが電磁弁の端子と干渉しないように、電磁弁の右側にもつてくる。ホースを電磁弁のソケット部に差込み、ストッピングで固定する。



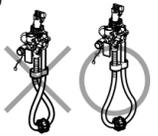
ポイント

電磁弁を手で持ち、ホースを挿入した後、ストッピングをしっかりととはめ込んでください。(ストッピングが外れると漏水の原因になります。)
※カチッと音がするまで差込んでください。
※ストッピングがソケットからはみ出していないことを確認してください。



注意

ホース継手を接続する際はホースがねじれないように注意してください。
※ハンドシャワーがスムーズに引き出せなくなります。



注意

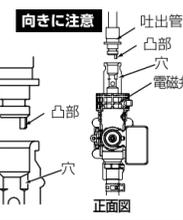
ホースは電磁弁の右側にくるようにし、ホースと電磁弁の端子が干渉しないように注意してください。

4. 電磁弁を吐出管に接続する。



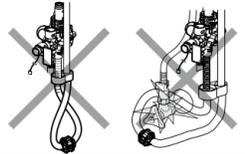
ポイント

吐出管の凸部と電磁弁側の穴位置を合わせてください。

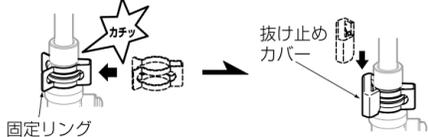


注意

●Oリングに傷をつけたりゴミがみがないよう注意してください。
※漏水の原因となります。
●電磁弁を吐出管に接続する際、ホースがねじれたり、止水栓をまたいで接続しないでください。
※ホースが破損し、漏水の原因となります。

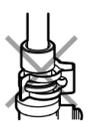


5. 固定リングと抜け止めカバーをはめ込む。



注意

固定リングをはめ損ねないよう、必ずしっかりととはめ込んでください。
※外れると漏水の原因となります。



6. ストッパーの固定

テープを覆うようにストッパーを取り付ける。

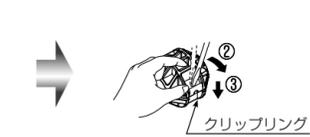
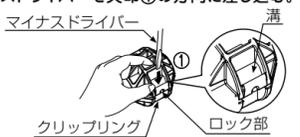
ポイント

ハンドシャワーは吐水口に納めた状態で行う。



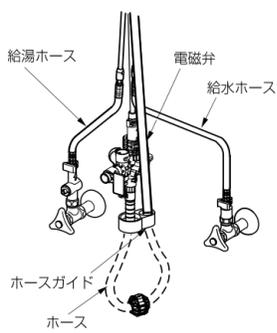
ポイント

ストッパーの外し方
1. ストッパーを指で押さえる。ロック部の溝に、マイナスドライバーを矢印①の方向に差し込む。
2. 差し込んだマイナスドライバーを矢印②の方向に傾ける。
3. マイナスドライバーを矢印③の方向に押し込んでロックを解除し、ストッパーを外す。



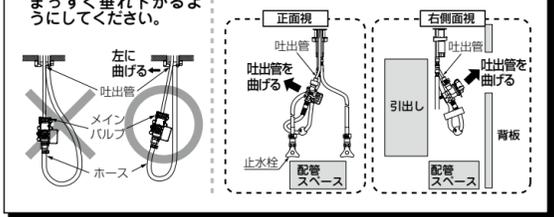
7. ホース収納性の確認

1. ハンドシャワーを出し入れし、ホースが給水・給湯ホース・電磁弁等と干渉せず、スムーズに上下に動くことを確認する。



ポイント

●ホース収納がスムーズになるよう、吐出管を左に軽く曲げて、ホースがまっすぐ垂れ下がるようにしてください。
●ホースが引出し、配管スペース、止水栓などに干渉する場合は、吐出管を軽く曲げて、ホースの干渉を避けてください。

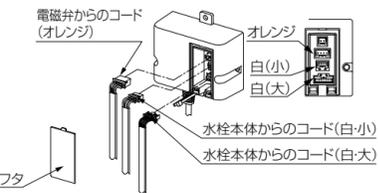


8. コントロールボックスの接続と設置

1. コントロールボックスの取付位置を施設図を参考に仮決めし、シャワーホースやフレキシホースと3本のコードが絡まないようにコードを取り回しておく。

濡れた手で触れたり、水がかからないよう十分注意してください。
※発火・ショート・感電・故障の原因となります。

2. コントロールボックスに電磁弁からのコードと、水栓本体からのコード2本を差し込む。



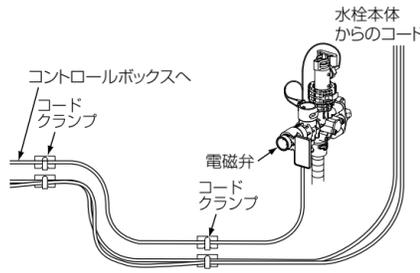
ポイント

下のコードから順に差し込んでください。

注意

コードを差し込んだ後、軽く引っ張って抜けないことを確認してください。
※作動不良の原因となります。

6. キャビネットの背板にコードクランプを取り付けて、コードをコードクランプでキャビネット内に固定する。(5~6か所)



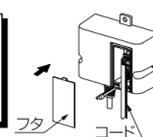
ポイント

上記の「コードクランプ」は、コントロールボックス・電磁弁よりも下方に設置してください。
※漏水や結露により水滴がコードを伝った場合に、コネクタ部に到達しないようにするためです。

3. コード類を溝に収納しフタを閉める。

注意

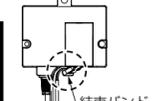
コード類とホース等が絡まないようにしてください。
※発火・ショート・感電の原因となります。



4. コード類を結束バンドでしっかりと固定する。

ポイント

コードを引っ張ったときに、コネクタ部に力が加からないようにしてください。



5. 側板もしくは、背板に図のように2本のビスで固定する。②のビスは左右どちらかに固定する。ステンレスキャビネットなどの場合は、補強木に固定する。ビスが使用できない場合は、付属の両面テープで固定する。

4. 施工後の調整

以下の手順の通り、正しく調整してください。

1. 作動確認

1. 電源プラグがコンセントに正しく差し込まれていることを確認する。

2. 電磁弁の手動弁が「左いっぱい」に回っていることを確認する。



注意

手動弁は工具を使わず、手でゆっくり左いっぱいに回してください。
※止水不良 (センサーに手をかざしても水が止まらない) の原因となります。

3. 止水栓を開き、レバーハンドルを上げる。



注意

高温に注意してください。
※レバーが湯側になっていると不意に高温の湯が出てやけどをする恐れがあります。

4. センサーに手をかざして、タッチレス湯水センサーの吐水・止水を確認する。



ポイント

●感知エリアは右図のようになっています。
●約3秒間手をかざし続けると自動的に止水します。
●10分間吐水が続くと自動的に止水します。

5. 自動センサーON/OFFスイッチを押し、光っている状態で、手を吐水口の下に差し出して、自動センサーの吐水・止水を確認する。



ポイント

●感知範囲は右図のようになっています。
●1分間吐水が続くと自動的に止水します。

ストレーナの掃除

注意

作動確認後、ストレーナを必ず掃除してください。
※ストレーナが詰まると流量が少なくなり、十分な機能が発揮されません。

切替ユニットのストレーナの掃除

1. ハンドシャワーを引き出す。
2. 裏側にある切替ユニットストッパーの溝部に精密ドライバー(マイナス)などを掛けて引き抜く。
3. 切替ユニットを外して、ストレーナに付いたゴミを歯ブラシなどで洗剤を使わずにこすり落とす。
4. 切替ユニットを取り付け、切替ユニットストッパーをはめる。

注意
切替ユニットを工具等で回さないでください。
※破損の原因となります。

ポイント
取り付けるときは、位置合わせの向きが合うように差し込む。

確認
取り付け後は切替ユニットが抜けてこないこと。

注意
切替ユニットストッパーを取り付けるときは、溝が吐水口側になるようにしてください。

ストレーナの掃除

1. 水側(湯側)の止水栓を右いっぱい回して閉じる。
2. レバーハンドルを開け、一度センサーに手をかざして止水確認および圧抜きをする。
3. 電磁弁の抜け止めカバーと固定リングを外し、吐出管から電磁弁を外す。
※洗面器などで排出される水を受けてください。
4. ストップリングをマイナスドライバーで外し、ソケットを外す。
5. ストレーナを精密ドライバー(マイナス)で外し、ゴミを歯ブラシなどで洗剤を使わずにこすり落とす。
6. ストレーナをソケットに取り付ける。
7. ソケットを電磁弁に取り付け、ストップリングをはめて、吐出管に接続する。

注意
ソケットを外す際、ソケットから出ているコードが引っ張られないようにしてください。

ポイント
ソケットの溝にストレーナをしっかりとめ込む。

注意
ソケットを取り付ける際、および吐出管に接続する際、Oリングに傷をつけたり、ゴミがまみらないように注意してください。
※漏水の原因となります。

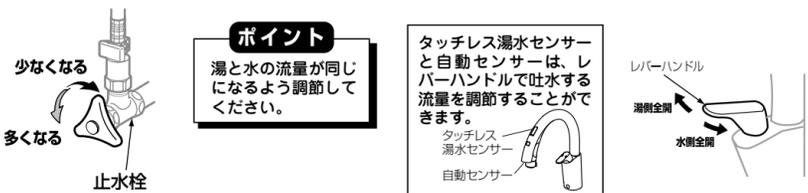
ポイント
吐出管の凸部をソケット内の穴位置に合わせてください。

寒冷地仕様の場合

1. 水側(湯側)の止水栓を右いっぱい回して閉じる。
2. レバーハンドルを開け、一度センサーに手をかざして止水確認および圧抜きをする。
3. ストレーナを取り外し、ゴミを歯ブラシなどで洗剤を使わずに洗い流す。
4. ストレーナを取付ける。

流量の調節

レバーハンドルを全開にしたときに、水側または湯側のシャワー吐水の流量が約8L/min(1リットルの容器をいっぱいにするのに約8秒)を超える場合は、止水栓で流量調節します。



お客さまが施工後すぐに使用しない場合

お客さまが施工後すぐに使用しない場合は、電源プラグを抜くか、もしくはブレーカーを落とす。

5. 引渡前の確認

注意

施工後は、電磁弁の水抜栓が閉まっている(右いっぱい回っている)ことを確認してください。
(寒冷地仕様の場合)
※開いた状態のままだと、漏水の原因になります。



電磁弁の手動弁を左いっぱい回した状態で、プレートをしっかり差し込んでください。
※プレートがしっかり差し込まれていないと手動弁が回り、水が止まらなくなる可能性があります。

お客さまに引き渡す前にもう一度通水し、次のような現象がないか確認してください。
確認後はレバーハンドルを下げ、自動センサー ON/OFFスイッチを押し消灯状態にしてください。

現象	点検内容	点検箇所	処置	参照項目
吐水しない	止水栓は開いているか?	—	止水栓を開く。	施工後の調節「流量の調節」
	レバーハンドルは開いているか?	B	レバーハンドルを開く。	
	コンセントに電気がきていないか? または停電中ではないか?	I	ブレーカーを確認する。 *停電の場合、手動弁を開く(右いっぱい回す)と吐水します。停電が解除されたら手動弁を開いて(左いっぱい回す)ください。	取扱説明書「停電および故障時の応急処置」
	電源プラグがコンセントに差し込まれているか?	N	電源プラグをコンセントに差し込む。	施工方法「電源部の接続」
	センサーの表面が汚れていないか?	E	汚れをふきとる。※1	
	コネクターが外れていないか?	M	コネクターを接続する。	
	断水中ではないか?	—	回復するまで待つ。	
	逆止弁が壊れていないか? (凍結等により)	J	逆止弁を交換する。	取扱説明書「定期的なお手入れ」
	ハンドシャワーが外れていないか?	O	ハンドシャワーを吐水口に差し込む。	取扱説明書「ハンドシャワーを使う」
	自動センサーON/OFFスイッチが赤色点滅していないか?	P	レバーハンドルを水側にし、タッチレス湯水センサーで吐水する。	取扱説明書「自動センサーを使う」
流量が少ない	圧力は十分か?	—	圧力条件を確認する。	施工の前に「本製品の仕様と条件」
	止水栓は十分開いているか?	—	止水栓を十分開く。	施工後の調節「流量の調節」
水が止まらない	ストレーナに、ゴミ詰まりはないか?	F・H・L	ゴミ等を水で洗い流す。	施工後の調節「ストレーナの掃除」
	配管途中に大きな抵抗はないか?	—	抵抗となる障害物を取り除く。	
	レバーハンドルを絞りすぎているか?	B	レバーハンドルを開く。	
	止水栓が閉じていないか?	—	止水栓を閉じる。(左いっぱい回す)	
	センサーの感知エリア内に障害物はないか?	E	障害物を取り除く。	施工の前に「施工完了図」 施工後の調節「動作確認」
湯水の逆流がある	逆止弁は正常か?(ゴミ、砂かみはないか?・Oリングにキズはないか?)	J	ゴミ等を水で洗い流す。 キズがあれば部品を交換する。	取扱説明書「定期的なお手入れ」
	希望の温度が得られない	—	圧力条件を確認する。 適正流量に調節する。	施工の前に「本製品の仕様と条件」 施工後の調節「流量の調節」
水栓本体がガタつく	ゆるみはないか?	G	ねじをしっかり締める。	
	ハンドルがガタつく	A	ねじをしっかり締める。	
ホースがスムーズに収納できない	シンク内でホースがねじれたり、電磁弁と干渉していないか?	H・K・Q	ねじれおよび干渉していないか確認する。	施工方法「ホースの収納性の確認」
	自動センサーON/OFFスイッチが白色点滅していないか?	P	コネクターが外れていないか確認する。接続されている場合はサーミスタの故障と考えられる。	交換してください。

キッチンくるりんと接続の場合

キッチンくるりに同梱の取付設置説明書の「4.引渡前の確認」についても点検を行ってください。

注意

※1センサー表面の汚れをふきとる場合は、キズをつけないようにしてください。
キズが付くと正常に作動しなくなる場合があります。

以下の現象は、故障ではありません。
●水を止めた後に少しのあいた水が垂れますが、切替ユニットの内部に溜まった少量の水が排出されるため、故障ではありません。
●センサーによる吐水・止水時にカチカチと音がするのは、電磁弁の動作音によるもので、故障ではありません。

